男女共同参画に関する市民意識調査
概要版

令和元年 11 月

この概要版は、「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果をとりまとめたものです。この調査は、性別や世代を超え、一人ひとりがいきいきと輝く「男女共同参画社会」の実現を目指したさまざまな取組を更に充実させるとともに、「昭島市男女共同参画プラン」の改定に向けての基礎資料とすることを目的に実施しました。

目　　次

回答者のプロフィール――――――――――2
１．家庭生活と社会生活の両立について――3
２．家庭生活について――――――――――4
３．子育て・介護について――――――――5
４．就労について――――――――――――8
５．地域活動について――――――――――――10
６．人権について――――――――――――――11
７．男女共同参画事業について――――――――13

調査の実施概要

１．調査の設計

◆調査地域　　昭島市全域
◆調査対象　　昭島市在住の満 18 歳以上の男女
◆標 本 数　　2,000 人（男女各 1,000 人）
◆抽出方法　　住民基本台帳からの無作為抽出（層化二段無作為抽出法）
◆調査方法　　郵送配布－郵送回収
◆調査期間　　令和元年７月 29 日（月）～８月 14 日（水）

２．回収結果

発送数	回収数	回収率
2,000 件	865 件	43.3%

＜この概要版を読むにあたって＞

・グラフ中の数値は、その質問項目に該当する回答者の数（n と表示）を 100.0%として計算した比率です。
・計算の都合上、四捨五入しているので、比率の合計は 100.0%にならない場合もあります。
・複数回答の質問は回答の合計が 100.0%を超えることがあります。

回答者のプロフィール

1　性　別　(%)

	n	男性	女性	左記以外	無回答
全　体	865	43.1	56.5	0.1	0.2

2　年齢別　(%)

	n	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	無回答
全　体	865	2.1	9.5	15.1	19.7	18.4	21.2	13.6	0.5
男　性	373	1.6	9.4	13.4	19.0	18.8	22.5	15.3	-
女　性	489	2.5	9.4	16.6	20.2	18.2	20.2	12.5	0.4

3　職業別　回答者本人　(%)

	n	自営業・家族従業員	会社役員、団体役員	正社員、正職員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト、契約社員(学生は除く)	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
全　体	865	5.4	3.6	33.5	1.2	22.7	14.8	3.7	13.3	0.9	0.9
男　性	373	7.2	6.7	48.3	1.1	12.6	-	3.2	18.5	1.6	0.8
女　性	489	4.1	1.2	22.5	1.2	30.5	26.2	3.9	9.4	0.4	0.6

4　結婚の有無別　(%)

	n	している(事実婚含む)	していた(離別・死別)	**結婚経験がある(計)**	していない(未婚)	無回答
全　体	865	68.1	9.0	77.1	22.8	0.1
男　性	373	68.1	5.4	73.5	26.5	-
女　性	489	68.3	11.9	80.2	19.8	-

職業別　配偶者・パートナー　(%)

	n	自営業・家族従業員	会社役員、団体役員	正社員、正職員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト、契約社員(学生は除く)	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
全　体	589	9.5	3.2	37.2	0.7	20.5	10.7	-	16.3	0.8	1.0
男　性	254	5.1	1.2	15.7	1.2	34.6	23.2	-	18.5	-	0.4
女　性	334	12.9	4.8	53.6	0.3	9.9	1.2	-	14.7	1.5	1.2

5　子どもの有無別　(%)

	n	いる	いない	無回答
全　体	865	65.2	34.6	0.2
男　性	373	61.9	37.8	0.3
女　性	489	67.9	32.1	-

6　世帯構成別

	n	単身世帯(ひとり住まい)	1世代世帯(夫婦や事実婚)	2世代世帯(親+子ども)	3世代世帯(親+子ども+孫)	その他	無回答
全　体	865	11.9	29.8	52.4	3.8	1.5	0.6
男　性	373	15.0	33.5	47.2	2.7	1.6	-
女　性	489	9.6	27.2	56.4	4.7	1.4	0.6

7　介護の必要な同居者の有無　(%)

	n	いる	いない	無回答
全　体	757	8.3	89.2	2.5
男　性	317	8.2	89.3	2.5
女　性	439	8.4	89.1	2.5

調査の結果

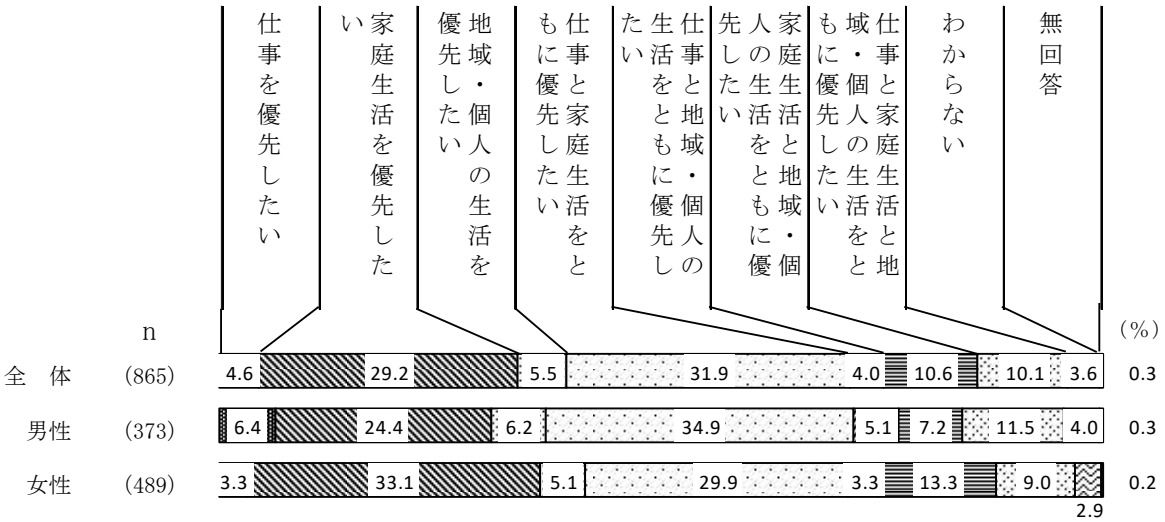
1　家庭生活と社会生活の両立について

◎　家庭生活の優先度

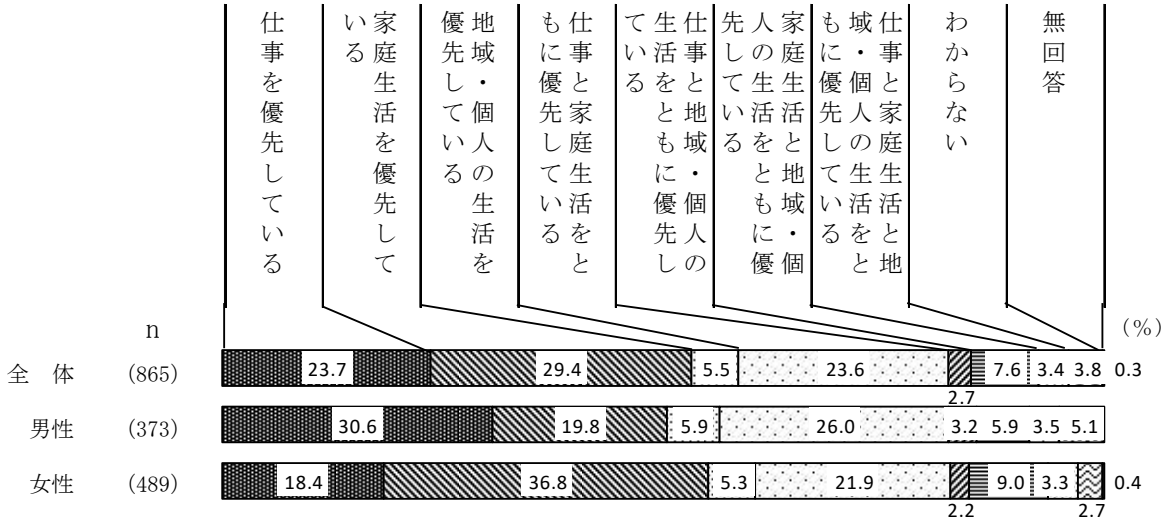
家庭生活の優先度について尋ねたところ、＜希望＞は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」となっています。また、＜現状＞は「家庭生活を優先している」、「仕事を優先している」、「仕事と家庭生活をともに優先している」が多くなっています。

性別でみると、＜希望＞は「家庭生活を優先したい」で女性が男性を上回っています。また、＜現状＞は「仕事を優先している」で男性が女性を上回っており、「家庭生活を優先している」で女性が男性を上回っています。

＜希望＞

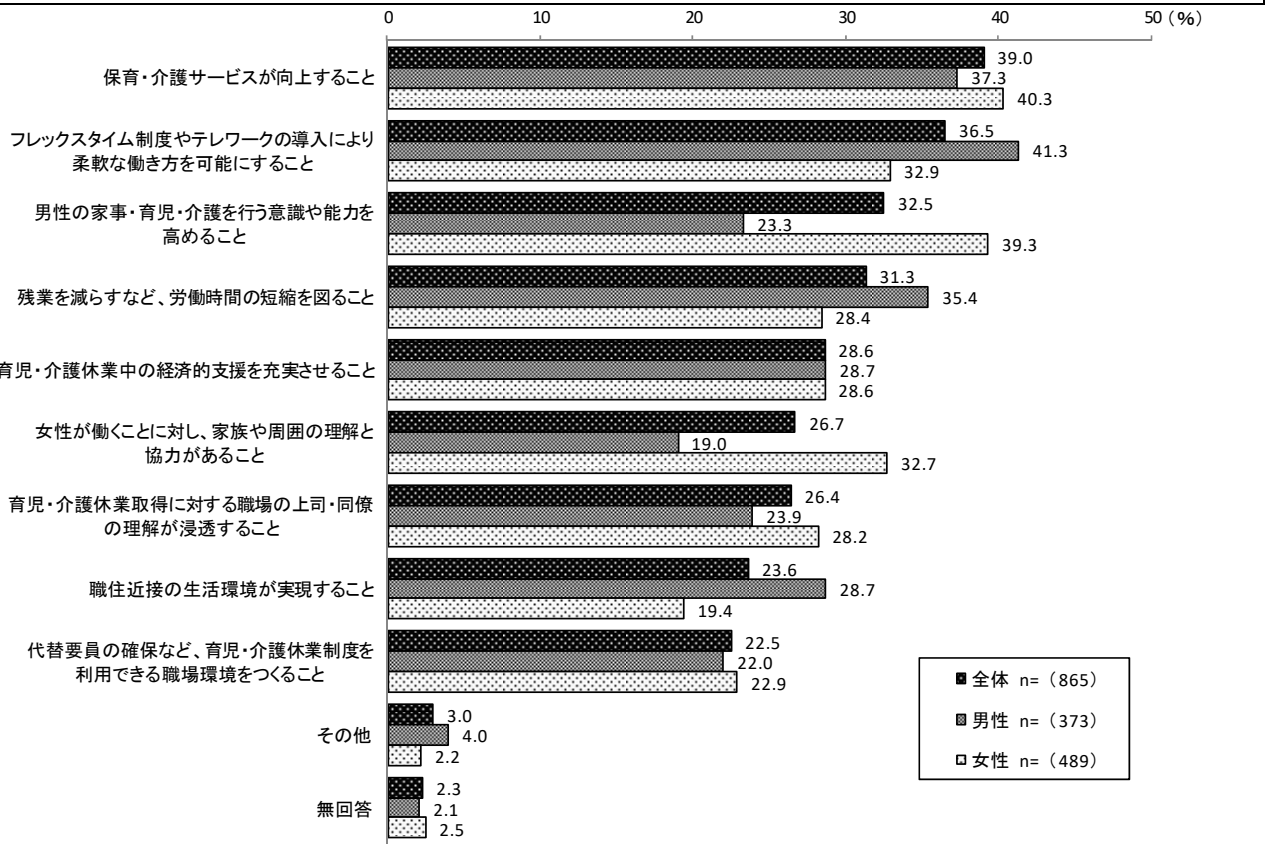


＜現状＞



◎　男女ともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なこと

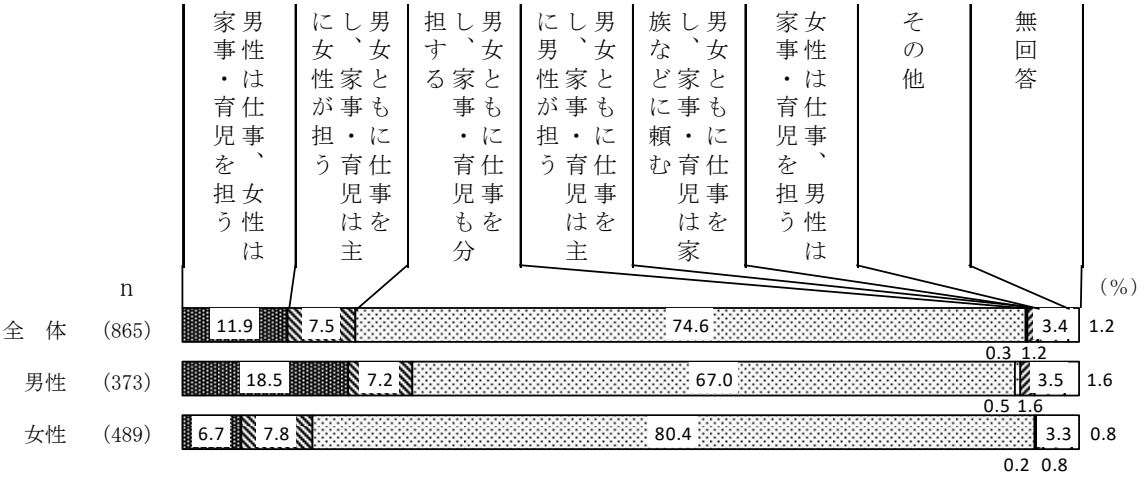
「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なことについて尋ねたところ、「保育・介護サービスが向上すること」が最も多くなっています。性別でみると、「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で女性が男性を上回っています。



2　家庭生活について

◎　男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担

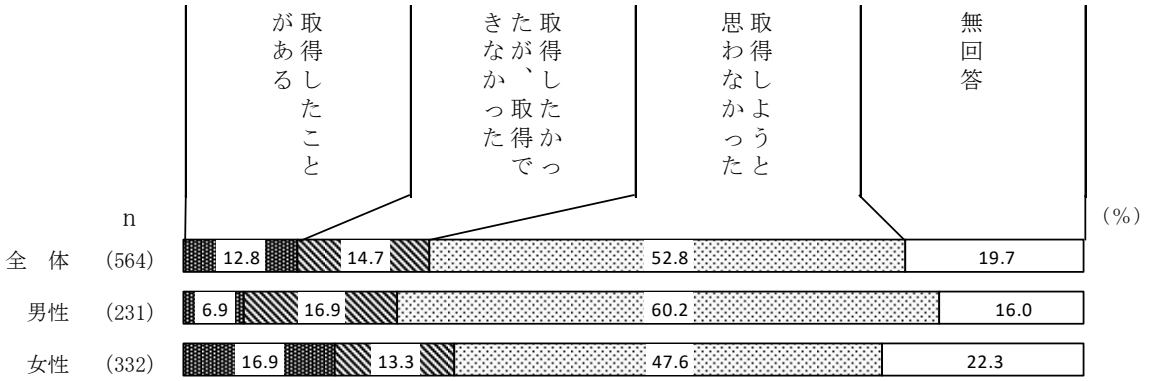
男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担について尋ねたところ、「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」が最も多くなっています。性別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を担う」で男性が女性を上回っています。



3　子育て・介護について

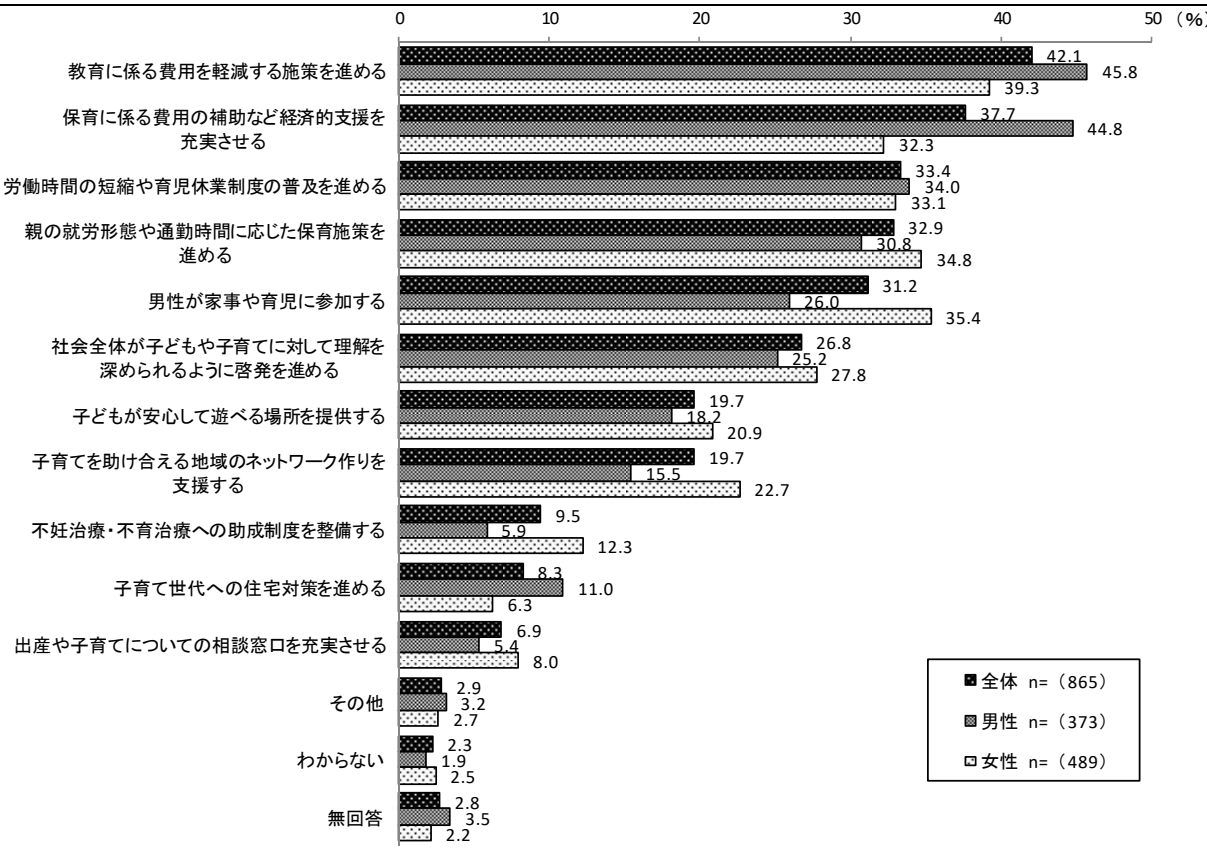
◎　育児休業取得の有無

お子さんがいる方に、育児休業取得の有無について尋ねたところ、「取得しようと思わなかった」が最も多くなっています。性別でみると、男性では「取得しようと思わなかった」で男性が女性を上回っています。



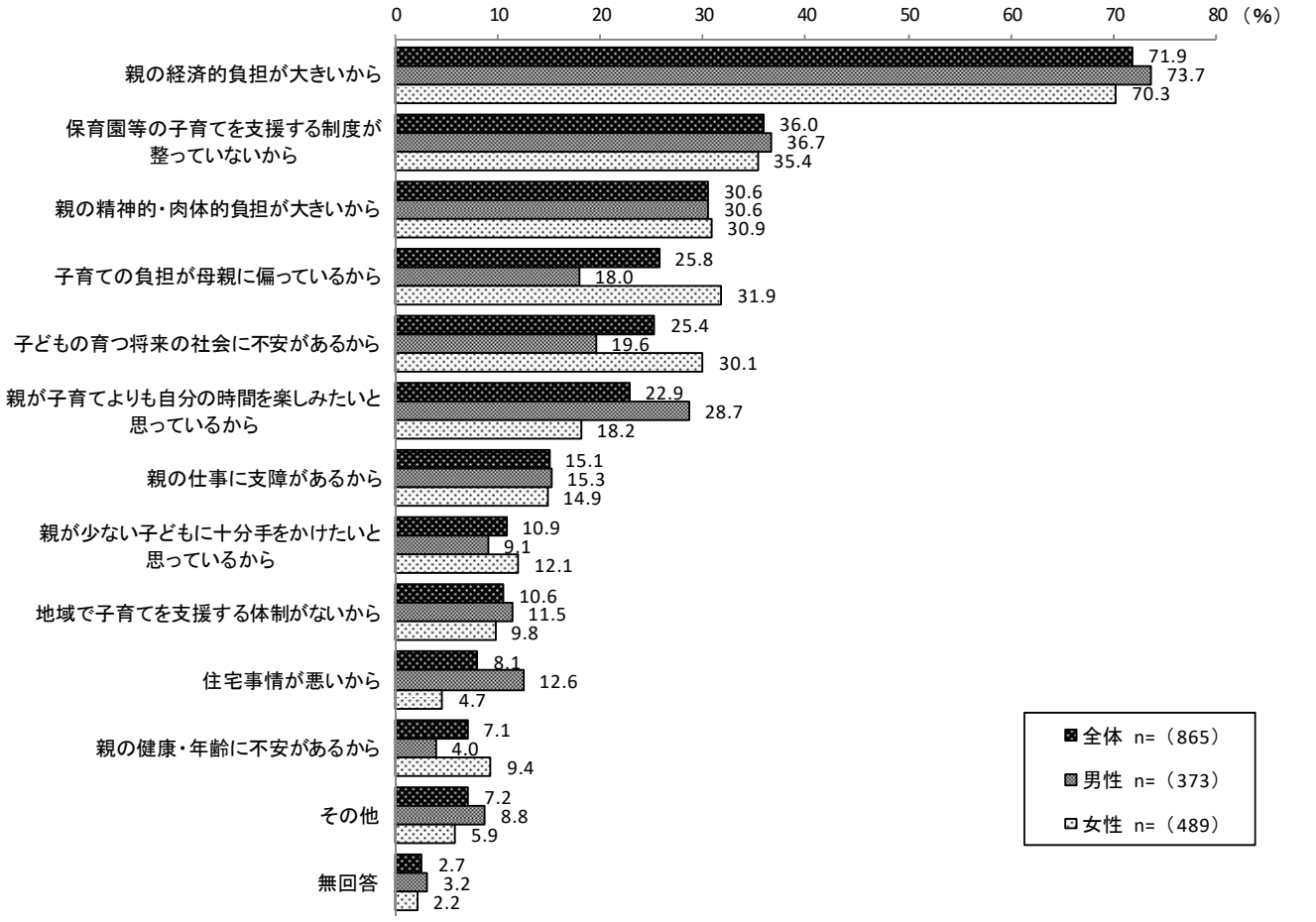
◎　安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと

安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なことについて尋ねたところ、「教育に係る費用を軽減する施策を進める」が最も多く、次いで、「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」となっています。性別でみると、「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」で男性が女性を上回っています。一方、「男性が家事や育児に参加する」、「子育てを助け合える地域のネットワーク作りを支援する」で女性が男性を上回っています。



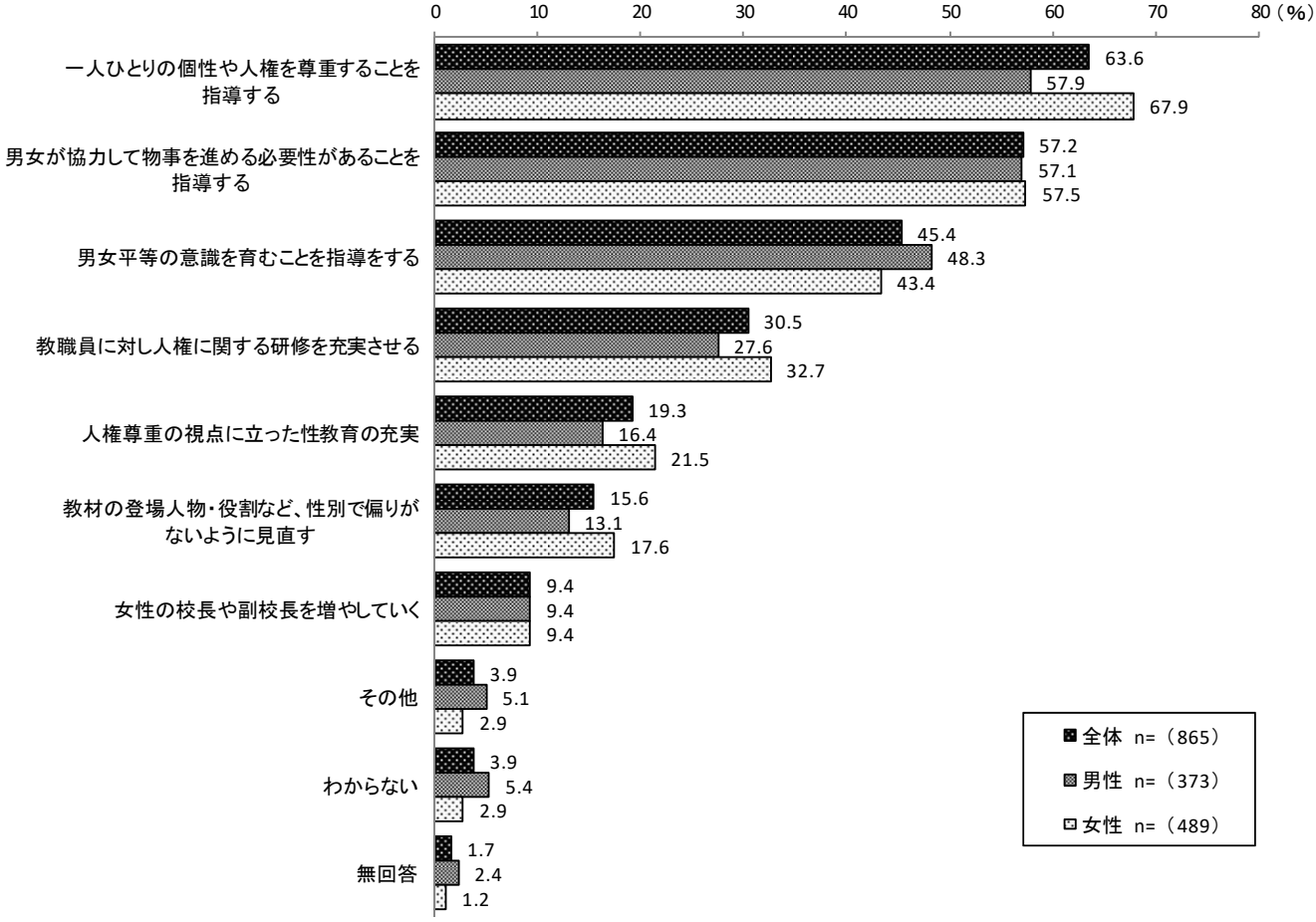
◎　少子化の原因

少子化の原因について尋ねたところ、「親の経済的負担が大きいから」が最も多くなっています。性別でみると、「親が子育てよりも自分の時間を楽しみたいと思っているから」で男性が女性を、「子育ての負担が母親に偏っているから」、「子どもの育つ将来の社会に不安があるから」で女性が男性を上回っています。



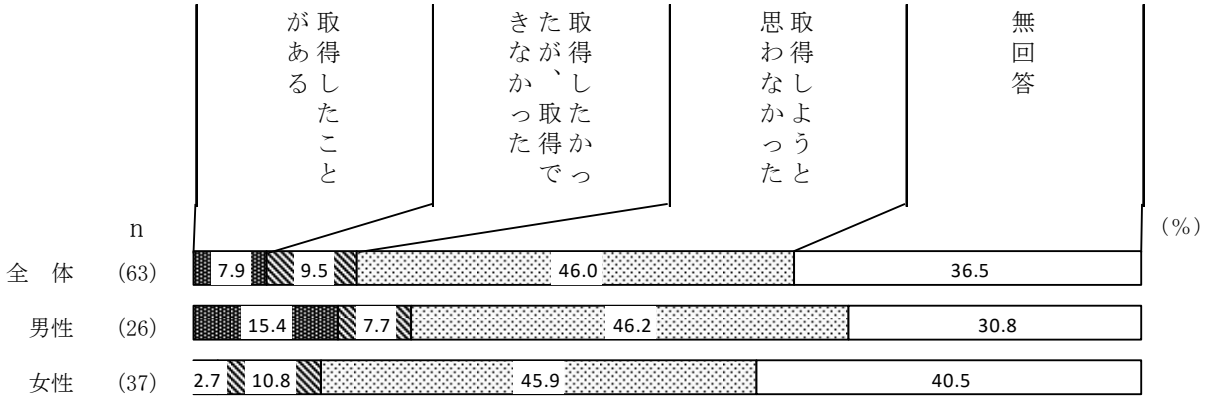
◎　男女共同参画社会の実現に向け学校に望むこと

男女共同参画社会の実現に向け学校に望むことについて尋ねたところ、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを指導する」が最も多く、次いで「男女が協力して物事を進める必要性があることを指導する」となっています。性別でみても、同傾向となっています。



◎　介護休業取得の有無

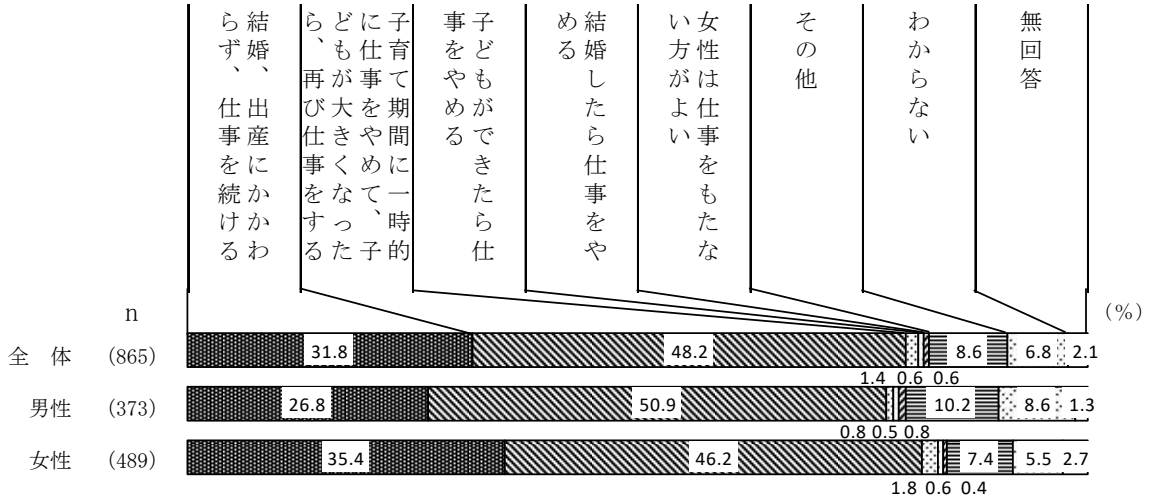
介護を要する方と同居している方に、介護休業取得の有無について尋ねたところ、「取得しようと思わなかった」が最も多くなっています。



4　就労について

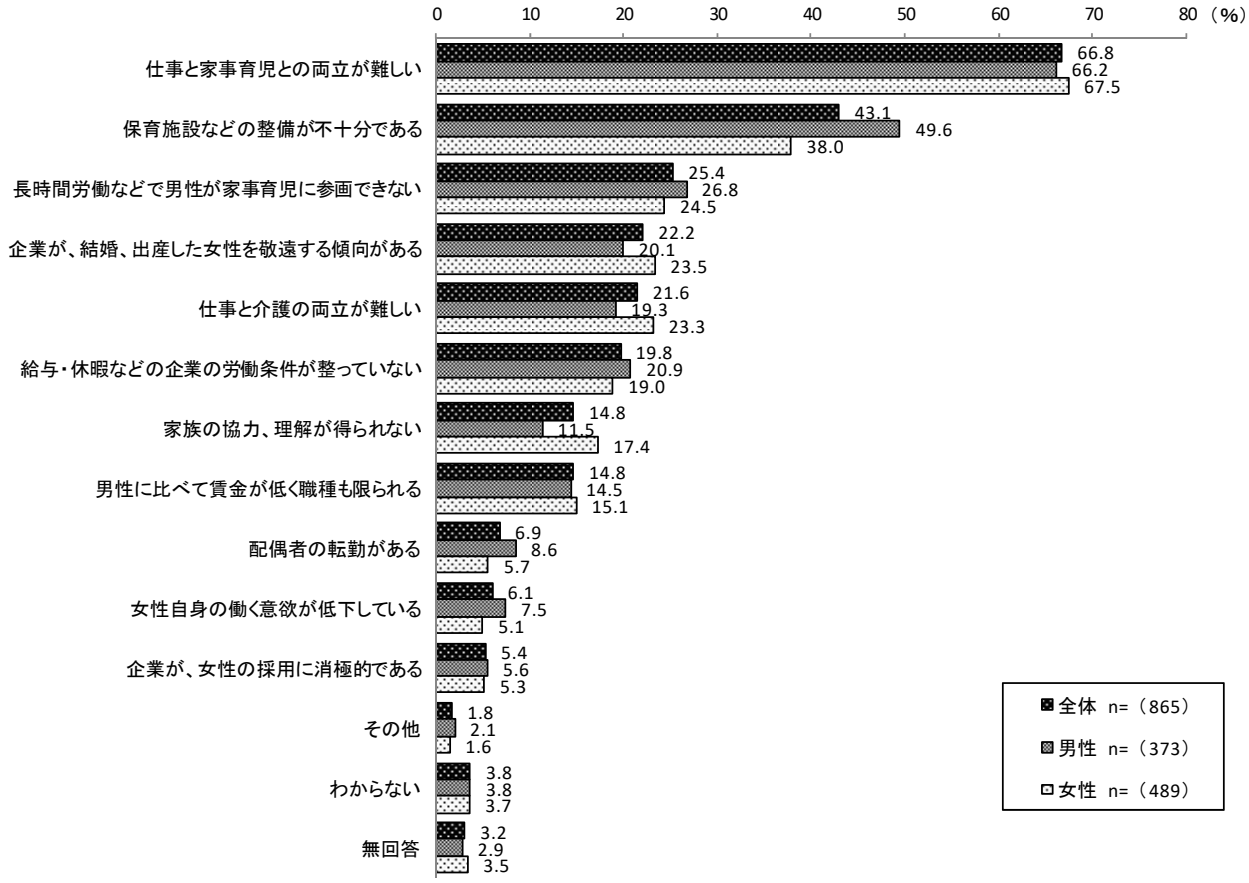
◎　女性の理想の働き方

女性の理想の働き方について尋ねたところ、「子育て期間に一時的に仕事をやめて、子どもが大きくなったら、再び仕事をする」が最も多く、次いで「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」となっています。性別でみると、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」で女性が男性を上回っています。



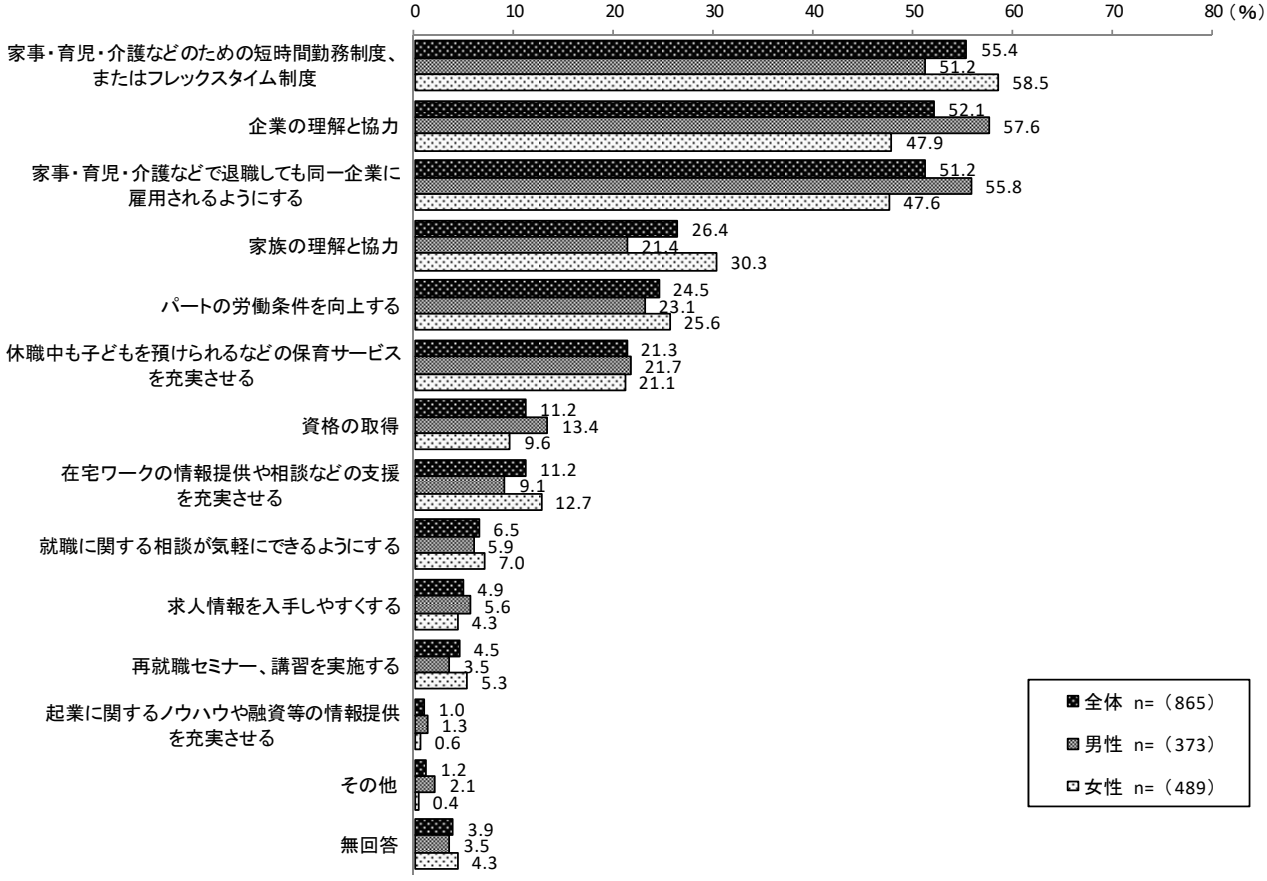
◎　女性が働く上での障害

女性が働く上での障害について尋ねたところ、「仕事と家事育児との両立が難しい」が最も多く、次いで「保育施設などの整備が不十分である」、「長時間労働などで男性が家事育児に参画できない」となっています。性別でみると、「保育施設などの整備が不十分である」で男性が女性を上回っています。



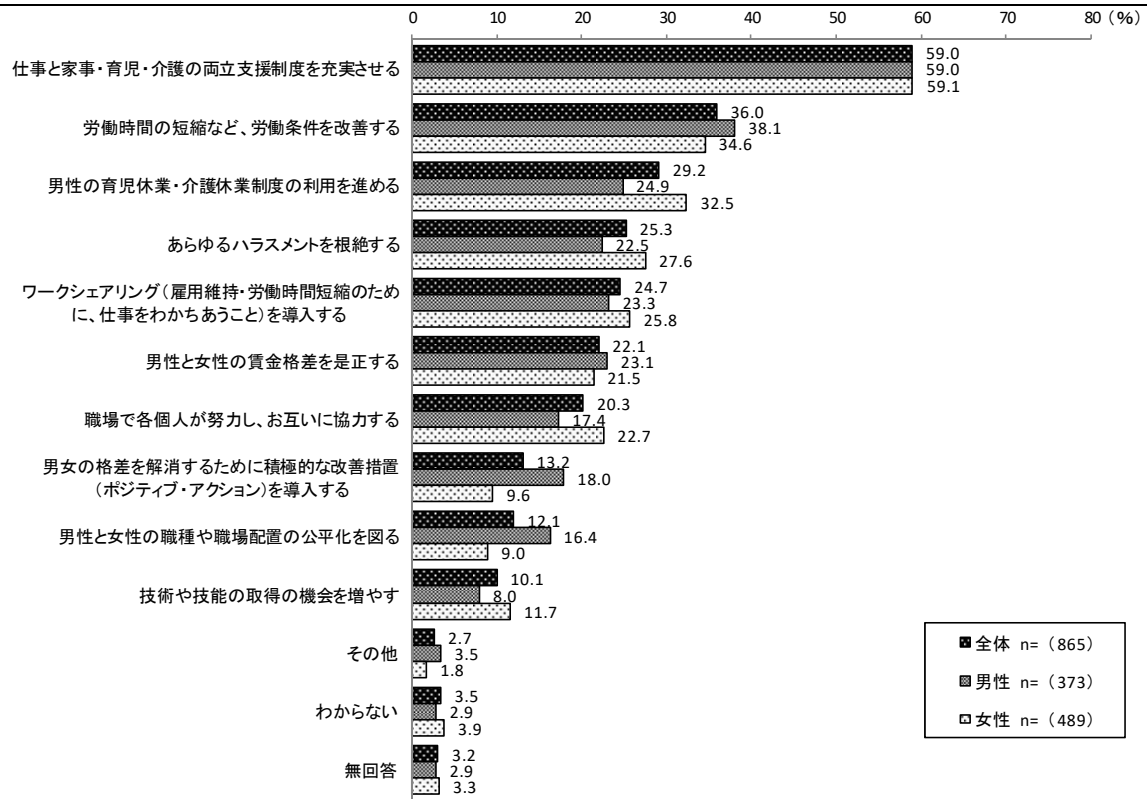
◎　再就職の際に役立つと思うもの

一時的な離職をした人が再就職を希望する際に役立つと思うものについて尋ねたところ、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」が最も多く、次いで「企業の理解と協力」、「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」となっています。性別でみると、「企業の理解と協力」、「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」で男性が女性を上回っています。一方、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」、「家族の理解と協力」で女性が男性を上回っています。



◎　男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと

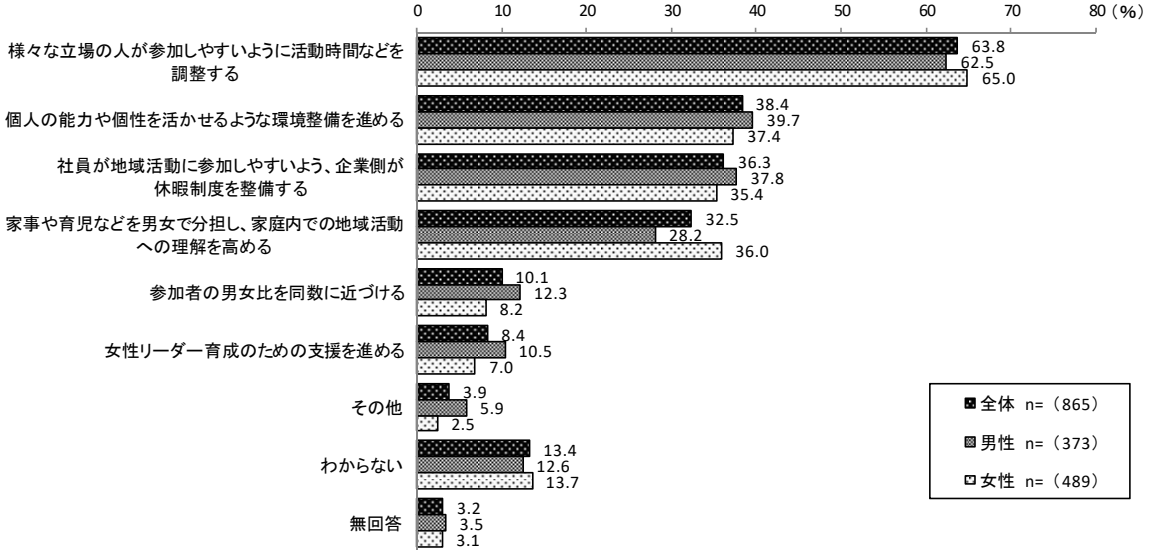
男女が共に働きやすい環境をつくるために重要なことについて尋ねたところ、「仕事と家事・育児・介護の両立支援制度を充実させる」が最も多くなっています。性別でみると、「男女の格差を解消するために積極的な改善処置（ポジティブ・アクション）を導入する」で男性が女性を、「男性の育児休業・介護休業制度の利用を進める」で女性が男性を上回っています。



5　地域活動について

◎　地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なこと

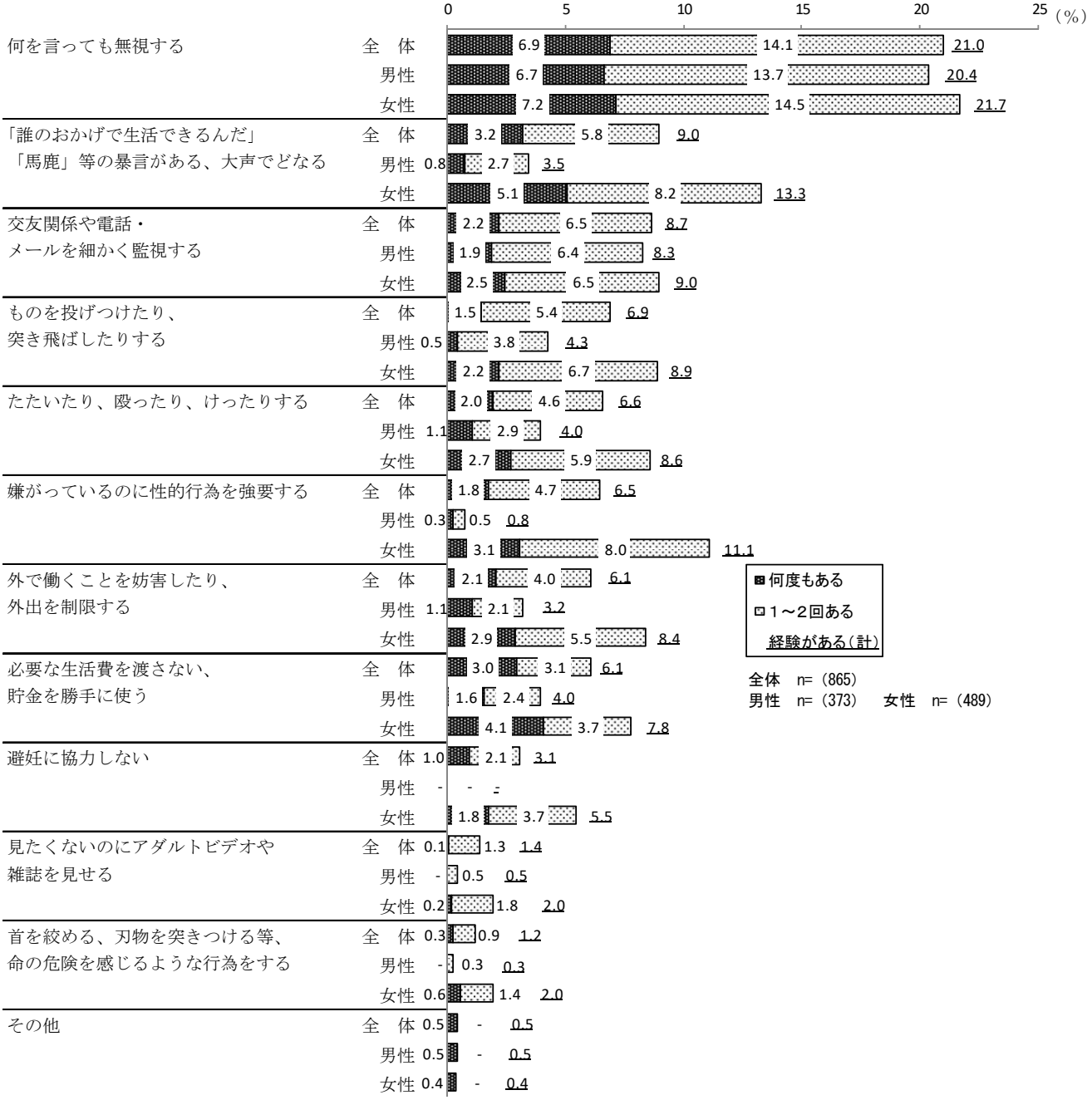
地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なことについて尋ねたところ、「様々な立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整する」が最も多くなっています。性別でみると、「家事や育児などを男女で分担し、家庭内での地域活動への理解を高める」で女性が男性を上回っています。



6　人権について

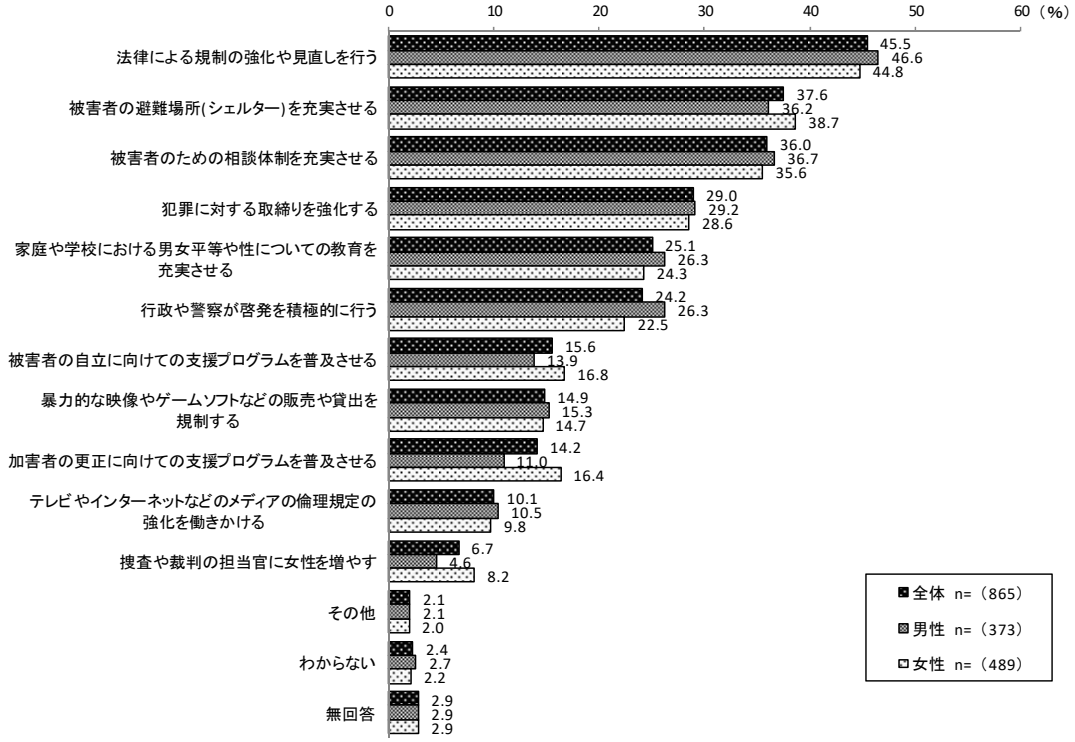
◎　パートナーからの暴力の有無

パートナーからの暴力の有無について尋ねたところ、「何度もある」と「１～２回ある」を合計した≪経験がある（計）≫は＜何を言っても無視する＞で最も多く、次いで＜「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる＞、＜交友関係や電話・メールを細かく監視する＞となっています。性別でみると、≪経験がある（計）≫は＜何を言っても無視する＞で男女ともに最も多く、女性では＜「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる＞、＜嫌がっているのに性的行為を強要する＞、＜交友関係や電話・メールを細かく監視する＞で多くなっています。



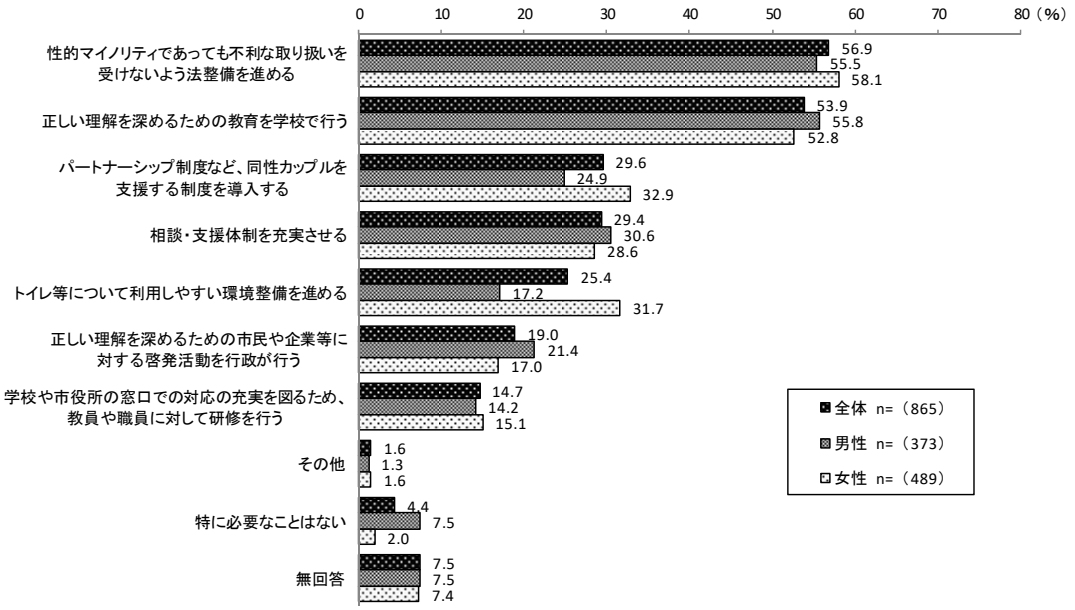
◎　暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策

暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策について尋ねたところ、「法律による規制の強化や見直しを行う」が最も多く、次いで「被害者の避難場所(シェルター)を充実させる」、「被害者のための相談体制を充実させる」となっています。性別でみると、「加害者の更生に向けての支援プログラムを普及させる」で女性が男性を上回っています。



◎　性的マイノリティの人権を守るために必要な施策

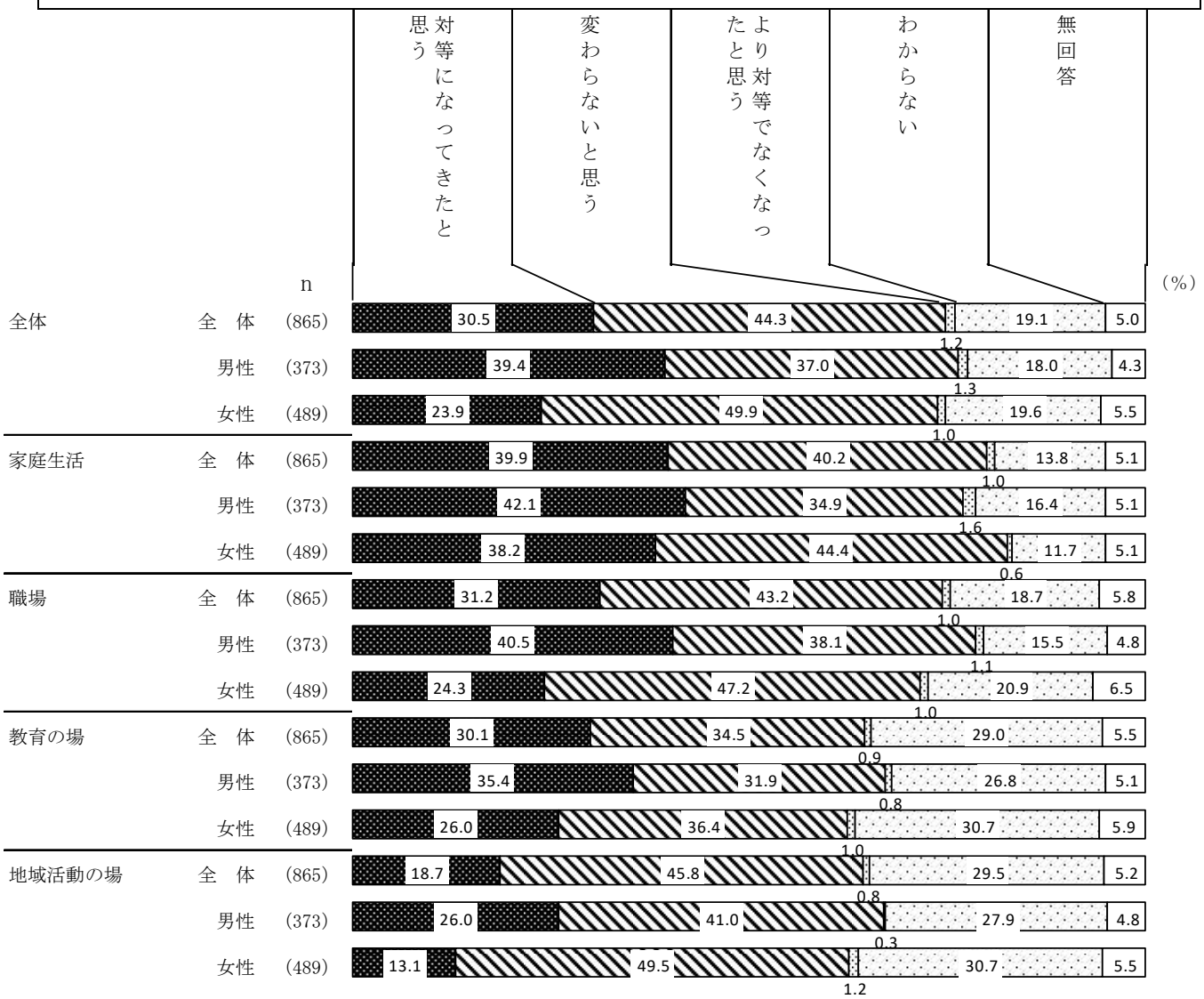
性的マイノリティの人権を守るために必要な施策について尋ねたところ、「性的マイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法整備を進める」が最も多く、次いで、「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」となっています。性別でみると、「パートナーシップ制度など、同性カップルを支援する制度を導入する」、「トイレ等について利用しやすい環境整備を進める」で女性が男性を上回っています。



7　男女共同参画事業について

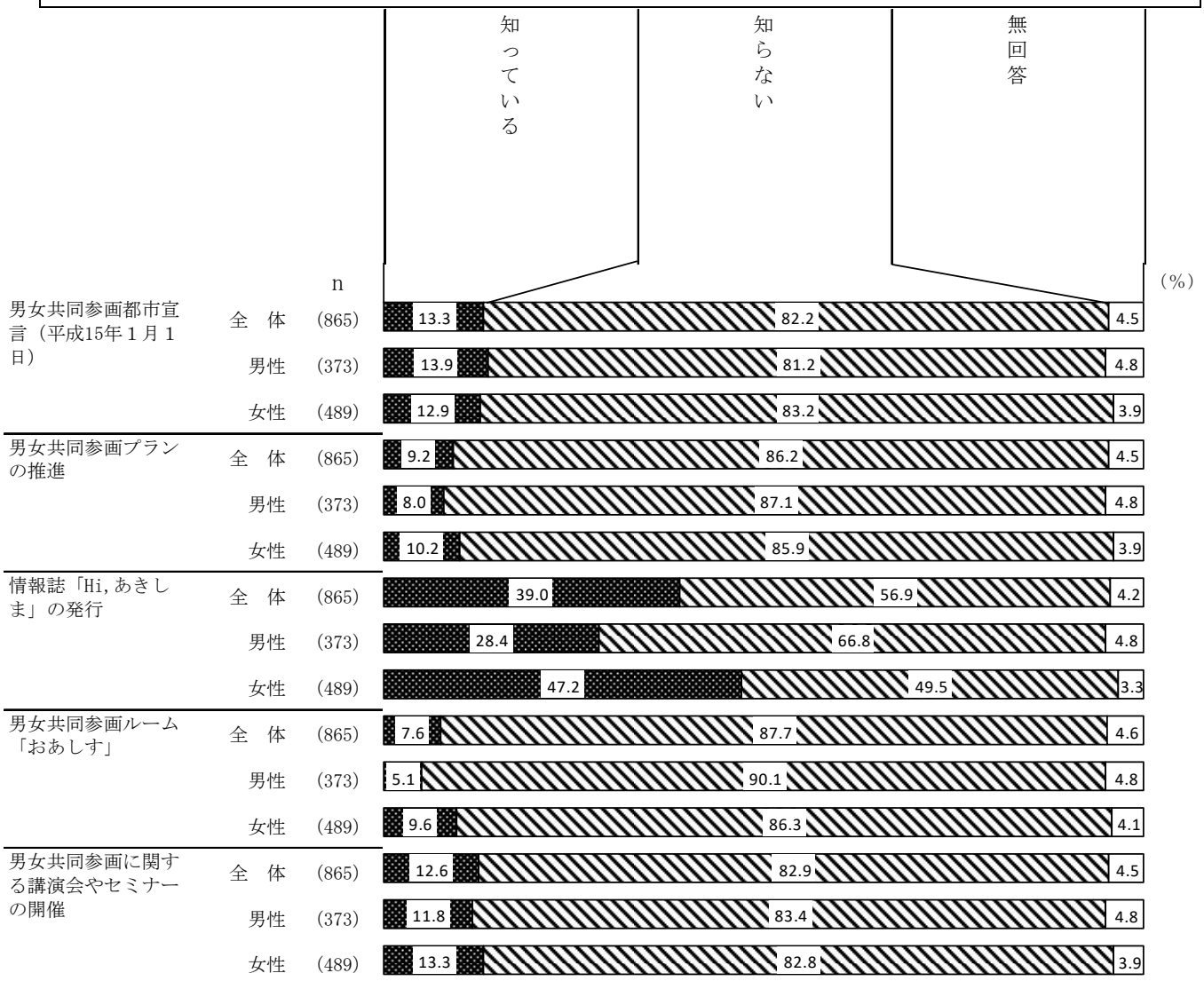
◎　男女共同参画事業の進捗状況

男女の地位について尋ねたところ、全ての項目で 10 年前と比べて「変わらないと思う」が最も多くなっています。性別でみると、男性では＜全体＞、＜家庭生活＞、＜職場＞、＜教育の場＞で 10 年前と比べて「対等になってきたと思う」が最も多くなっています。



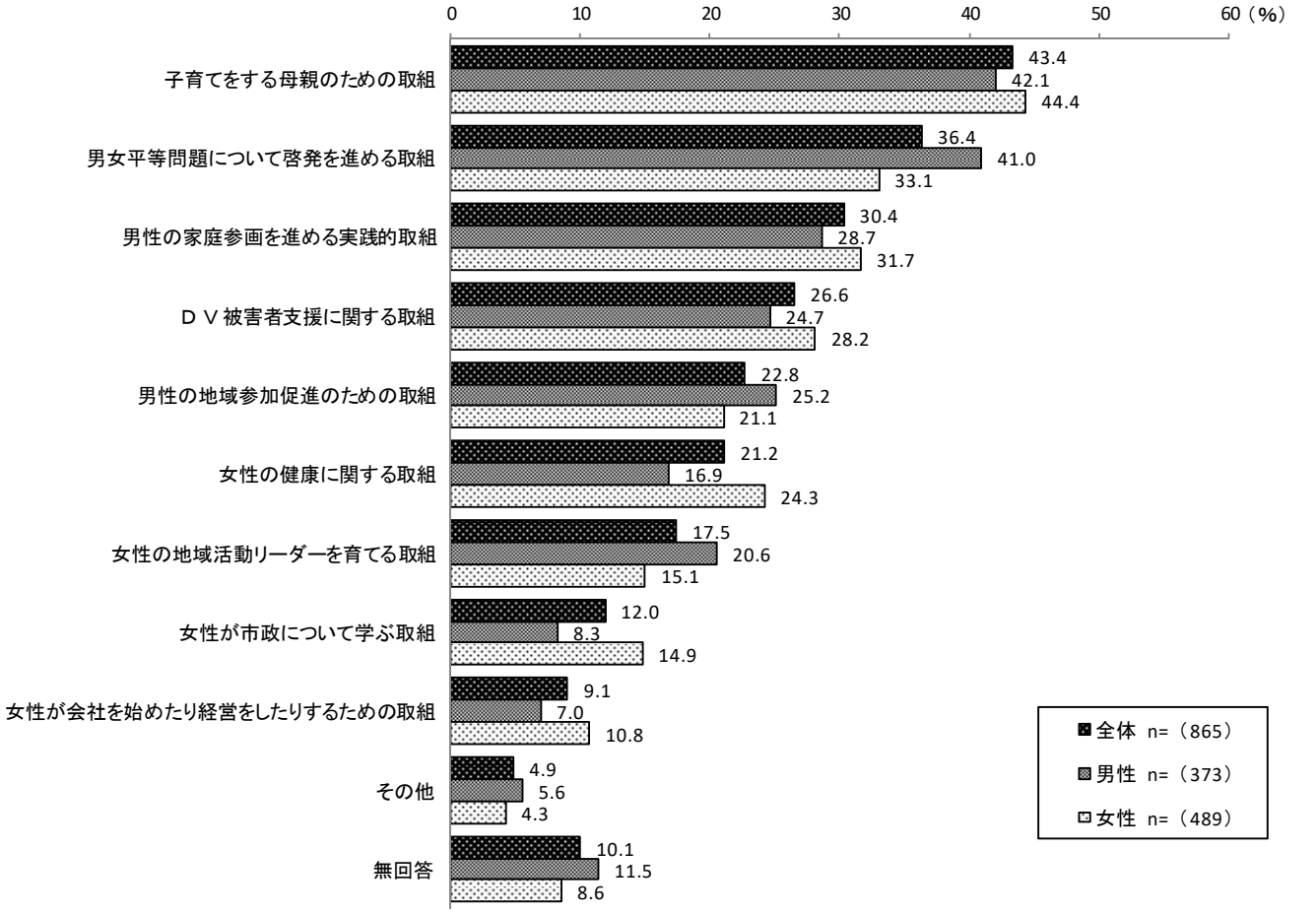
◎ 昭島市の事業の認知状況

昭島市の事業の認知状況について尋ねたところ、「知っている」は＜情報誌「Hi,あきしま」の発行＞で最も多く、次いで＜男女共同参画都市宣言（平成 15 年１月１日）＞、＜男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催＞となっています。性別でみると、「知っている」は＜情報誌「Hi,あきしま」の発行＞で女性が男性を上回っています。



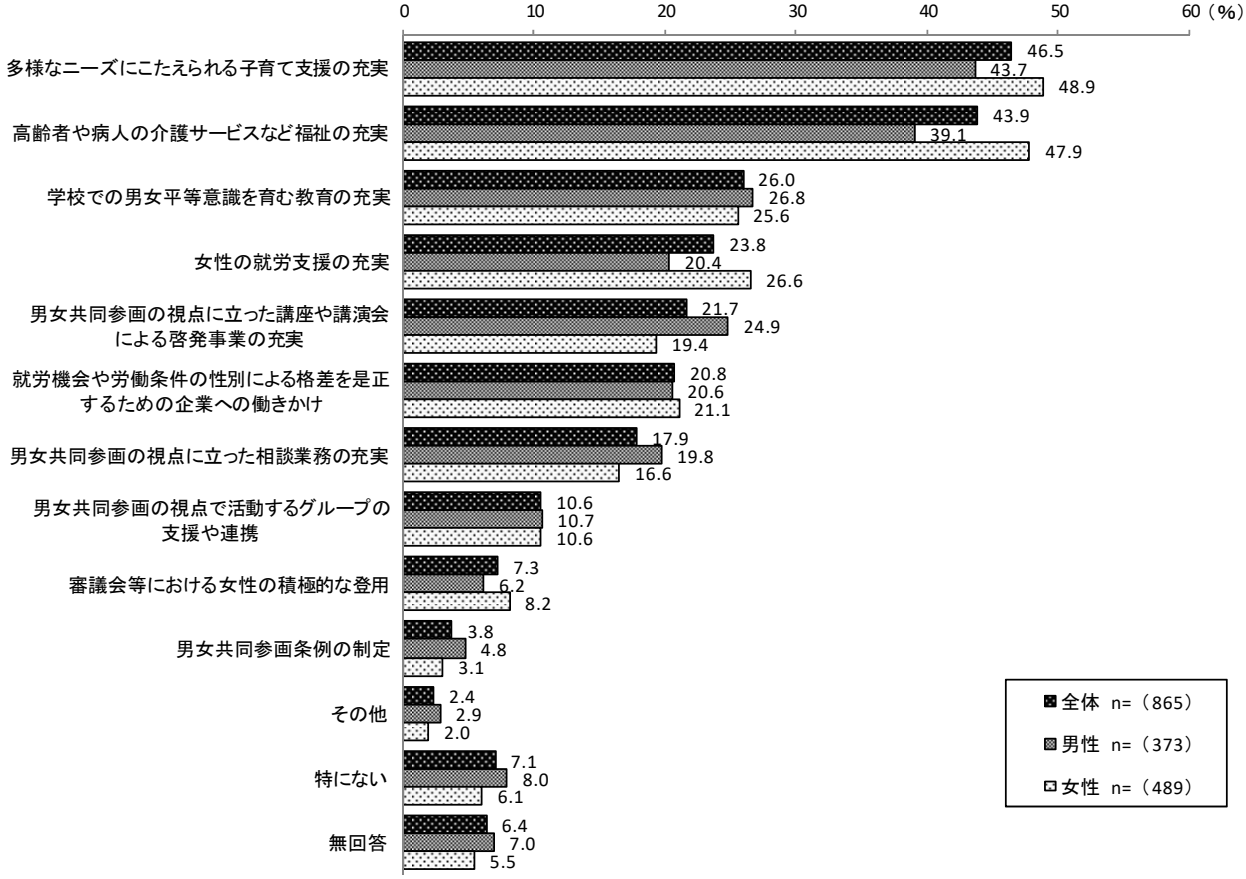
◎　男女共同参画センターで重点的に行うべきこと

男女共同参画センターで重点的に行うべきことについて尋ねたところ、「子育てをする母親のための取組」が最も多く、次いで「男女平等問題について啓発を進める取組」、「男性の家庭参画を進める実践的取組」となっています。性別でみると、「男女平等問題について啓発を進める取組」、「男性の地域参加促進のための取組」、「女性の地域活動リーダーを育てる取組」で男性が女性を上回っています。一方、「女性の健康に関する取組」、「女性が市政について学ぶ取組」で女性が男性を上回っています。



◎　男女共同参画社会実現のために市に推進してもらいたいこと

男女共同参画社会実現のために市に推進してもらいたいことについて尋ねたところ、「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」が最も多く、次いで「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」、「学校での男女平等意識を育む教育の充実」となっています。性別でみると、「男女共同参画の視点に立った講座や講演会による啓発事業の充実」で男性が女性を、「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」、「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」、「女性の就労支援の充実」で女性が男性を上回っています。



男女共同参画に関する市民意識調査　概要版　令和元年 11 月
発行　昭島市企画部企画政策課　男女共同参画担当
〒196-8511　昭島市田中町一丁目 17 番 1 号